

令和4年度 普及活動外部評価

【外部評価の目的】

普及活動が高度化・多様化する中で、外部評価委員会において、幅広い視点から客観的な評価を受け、その結果を今後の効率的・効果的な普及活動の推進に資する。

【実施概要】

(1) 日 時 令和5年10月18日(水) 午後1時00分～午後4時20分

(2) 場 所 総合農業技術センター、中北地域普及センター(現地調査)

(3) 評価対象及び方法

令和4年度の普及活動年度計画に掲げた32課題及び重点プロジェクト計画に掲げた11計画の活動実績を外部評価対象とし、この中から3つの普及活動を抽出し、評価委員へ具体的な説明と現地調査を行い、全ての課題について評価を受けた。

〈抽出した普及活動〉

- ① 平坦地の米の品質向上に向けた取り組み(総合農業技術センター)
- ② 耕畜連携による県産飼料の利用拡大への取り組み(畜産酪農技術センター)
- ③ 農業経営の法人化と企業的経営の支援(中北地域普及センター)
- ④ 現地調査「有機野菜栽培とサラダ製造・販売の取り組みについて」
(中北地域普及センター)

【評価委員】

8名

○学識経験者

渡辺 靖仁氏(山梨大学生命環境学部地域社会システム学科教授、座長)

○民間企業等

笠井 靖子氏(山梨県中小企業団体中央会経営支援課主幹)

○マスコミ関係

保坂 真吾氏(山梨日日新聞社論説委員)

○農業団体

足達 郁也氏(JA山梨中央会専務理事)

原野 博氏(山梨県果樹園芸会会長)

○農業者(先進的な農業者、女性農業者)

加賀美 和洋氏(山梨県指導農業士会副会長)

佐藤 裕子氏(富士山すみれパティスリー代表)

○消費者

古家 滋子氏(パルシステム山梨理事長)

【令和4年度普及課題一覧表】

	普及活動課題	活動 事項数	抽出した普及活動
1	中核的担い手の育成・支援	3	①農業経営の法人化と企業的経営の支援
2	新規就農者の確保・育成	4	
3	スマート農業の導入推進	2	
4	果樹の省力化と生産安定	3	
5	果樹産地のブランド力の強化	5	
6	野菜の生産安定	3	
7	水田農業の低コスト化と生産安定	1	
8	花きの生産安定とブランド強化	2	
9	畜産ブランドの育成と産地強化	2	
10	地域資源の利活用促進	2	
11	地域特産農産物の生産振興	2	
12	都市農村交流による農山村の活性化	2	
13	生産体制の構築	1	

【令和4年度重点プロジェクト計画】

	計 画 名	抽出した普及活動
1	やまなしGAP認証に向けた指導・審査体制の整備と取組強化	
2	JA指導員との連携と普及指導員の資質向上	
3	中核的担い手の育成に向けた活動支援	
4	新規就農者の確保・育成	
5	スイートコーンの産地拡大に向けた取り組み	
6	施設野菜産地の強化に向けた施設内環境管理技術の改善	
7	水田農業の低コスト化と生産安定対策	②平坦地の米の品質向上に向けた取り組み
8	県オリジナル品種等を導入による花き産地の強化	
9	県オリジナル品種等を導入による果樹産地の強化	
10	気象変動に応じた果樹の生産安定対策	
11	畜産農家の生産意欲向上	③耕畜連携による県産飼料の利用拡大への取り組み

【評価項目と評価視点及び評価点】

評価項目	評価視点
普及活動計画の内容	(普及活動基本計画) <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業者の意見や意向が十分に把握されているか ・ 県、市町村等の計画との整合性はとれているか ・ 市町村、農協、農業委員会等、関係機関との調整は行われているか (普及活動年度計画) ・ 普及活動基本計画との整合性がとれているか ・ 年度内に取り組む課題解決のための具体的な計画となっているか ・ 普及課題は地域の現状や時代のニーズを考慮した設定となっているか ・ 普及課題に即した具体的な目標が設定されているか ・ 農業者や消費者の意向、地域状況の変化等を取り入れたものとなっているか ・ 普及対象は適切に選定されているか
普及活動の取り組み (体制及び手法)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織的かつ継続的な活動体制となっているか ・ 試験研究機関や市町村、農協等、関係機関との連携、役割分担はとれているか ・ 普及活動計画の進行管理は適切に行われているか ・ 活動方法、活動時期は適切であるか ・ 情報の蓄積、管理や発信体制は適切であるか
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普及活動計画に基づき活動が実施できたか ・ 成果が地域農業者や産地の振興につながっているか ・ 対象農業者の意識改革が見られた活動であったか

【評価点】

■各評価項目及び総合評価について、下記の区分で評価

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

【各評価項目に対する評価点及び委員からの主な意見、提言】 (評価点：満点5点)

■評価項目：普及活動計画の内容 評価点 4.6

- ・ 本県の農業を巡る諸課題を網羅的にカバーしており、盛りだくさんで意欲的である。重点プロジェクト計画も設けられており、制約ある体制のもとで懸命に取り組んでいることを理解した。
- ・ 農業生産における問題解決に向けたテーマを捉えた課題設定がされており、本県農業の振興につながる取り組みであり、高く評価する。
- ・ 農業法人の育成や企業の農業参入は、農地の有効活用や雇用等の解決策の一手段としてあげられる。これらの課題に着目した普及活動は、さらなる本県農業の振興につながる取り組みとして高く評価する。
- ・ 耕畜連携による県産飼料の利用拡大は、飼料費が高騰する中で飼料自給率を上げることや地産地消の観点からも高く評価する。
- ・ 畜産農家と耕種農家が共にメリットが感じられる関係を築きながら、利用をさらに伸ばしていけるようマッチングなどの支援が期待される。

- ・農業従事者の減少や高齢化による耕作放棄地の増加や集落機能の低下、気候変動などによる農作物への影響に対して、さまざまな課題に取り組んでいることを理解できた。
- ・本県の野菜、水稲、畜産における取り組みについて理解できた。

■評価項目得：普及活動計画の取り組み（体制及び手法） 評価点 4.6

- ・地球温暖化に対応した新品種選択、日本経済の減衰に応じた飼料自給の試み、有機野菜によるサラダパックの開発展開、法人化による営農の持続可能性の向上など、その意義と価値をわかりやすく実践しやすいように伝える検討がなされていることを高く評価する。
- ・畜産の飼料価格が高騰し、経営コストが高止まりしている厳しい状況が続いていることから、自給飼料の生産やコストの軽減に取り組んでいることを高く評価する。今後も一層の取り組みと技術普及を期待する。

■評価項目：活動の成果 評価点 4.5

- ・多様な担い手が共存する地域農業の振興策と農業生産法人の育成に向け、企業的な経営感覚を地域の新たな農業づくりの手法の一つと捉え、農業者の経営感覚の向上に貢献している点を高く評価する。
- ・米の新たな品種の導入（奨励品種への指定、産地銘柄指定、種子の調達など）は、県産米の振興に貢献するものであり高く評価する。
- ・耕畜連携による県産飼料の利用拡大は、畜産農家の経営負担の軽減と水稲農家の水田フル活用につながり、農地の活用、本県の畜産ブランド力の生産基盤を支える取り組みとして高く評価する。

■評価項目：総合評価 評価点 4.5

- ・普及活動は、多様な価値観を持ち、中長期の視点が必要であることから柔軟な発想で忍耐強く取り組まれていることに敬意を表す。
- ・地域農業が抱える課題を捉え、その解決策と今後の発展につながるものとして高く評価する。
- ・地球温暖化に対応した品種の導入や飼料高騰を踏まえた県産飼料の利用拡大など、地球規模の環境変化の中で、持続可能な農業を探ることは大切なことであり、今後の普及活動に期待する。
- ・本県の有機野菜の取り組み・魅力・価値観等が、全国に広がることを期待する。

■その他

（現地調査）

- ・県外から農業参入して有機野菜栽培を開始し、農業法人化の設立、カップサラダを製造することで生産物を無駄なく利用可能にした取り組みは注目される。地域の農業者との連携の輪が広がり、有機野菜 100%サラダの産地として広く認知されるようになれば、地域振興にもつながると感じた。
- ・有機農業による野菜生産とカットサラダの製造販売の取り組みは、地域普及センター等の支援と経営者の柔軟な発想で小規模経営での収益性向上を実現している取り組みである。

【評価を踏まえた今後の対応】

今回の評価対象とした令和4年度普及活動年度計画及び重点プロジェクト計画について、委員の皆様からいただいた評価及び意見をもとに、令和5年度の普及活動年度計画及び重点プロジェクト計画の活動内容及び活動方法の改善に反映させていくこととする。

「令和5年度普及活動外部評価の様子」



検討状況



評価委員への説明



現地調査